

消化器病専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 焼津市立総合病院 消化器内科科長 小平誠

静岡県の中中部地域は大きく2つに分かれます。静岡市と志太榛原地域です。地図の上では、駿河国のうち富士川以西と、遠江国のうち牧之原台地以東に相当します。

ここに本ネットワークに属する病院は6つありますが、それぞれ個性派ぞろいです。一つ共通点があるとする全病院とも忙しい病院であるということです。私自身なぜ忙しいのか時々考えてみますが、よくわかりません。各病院それぞれの事情があると思います。それぞれの事情を肌で感じつつ、消化器内科として自立したいという先生方。是非力をお貸しください。



2 目的

初期研修で身につけたことをさらに発展させながら、消化器内科専門医になってもらうことを目的とします。

そのためには、まず総合内科専門医を目指しつつ、消化器内科の知識と技術を身につけてもらいます。

3 特徴

詳細は、病院紹介をご覧ください。

上に述べた様に病院毎に特徴がありますが、消化器内科としての治療内容にも多少流儀があります。2つ以上の病院を組み合わせる研修し、基本を固めた後、自分の流儀の確立を目指してもらいたいと考えております。

4 研修カリキュラム

「消化器病専門医研修カリキュラム」に準拠して行います。

5 研修内容

- 1) 研修年数は4年です。
- 2) 静岡市病院群から1病院、志太榛原病院群から1病院選択してそれぞれ2年間研修します。
- 3) 研修先病院の調整は、研修医の希望を配慮し、個別に行います。
指導力から、同時にこのプログラムの乗った複数の研修医が同じ病院で研修することは避けることを原則とします。
- 4) 4年目に消化器病専門医試験を受けることを義務づけます。

<研修例>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	静岡市病院群(A-1)					あるいは			志太榛原病院群(B-1)			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年目	静岡市病院群(A-1)					あるいは			志太榛原病院群(B-1)			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年目	志太榛原病院群(B-2)					あるいは			静岡市病院群(A-2)			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年目	志太榛原病院群(B-2)					あるいは			静岡市病院群(A-2)			
	消化器病専門医試験											

6 研修病院群

A: 静岡市病院群

1) 静岡県立総合病院

病床 720 床、29 科よりなる静岡県を代表する総合病院です。2009 年の時点において消化器関連の種々の検査・治療数は全国的にみても多く、さらに 2010 年に新体制になってからその前年に比較し 30%ほど増加しています。

臨床のレベルの高さは言うまでもなく、それを基盤としたプログラムされた有意義な臨床研修を提供致します。特に、手技に関わる研修においては、主治医となる研修医の皆さんに出来る限り直接手がけていただけるように、スタッフが文字通り手取り足取りの指導を致します。

2010 年より現在の新体制になってから、日本語だけではなく英文による論文作成、国内外での学会発表を多数おこなっております。皆様にも学会や研究会での発表を積極的に行っていただきます。

静岡県立総合病院では有意義な臨床研修をお約束できます。

2) 静岡市立静岡病院

ベッド数 500 床（うち消化器内科 56 床）の静岡市の基幹病院として、幅広く一般的な疾患から専門的な消化器疾患に対して全人的医療を行っています。

症例数は多く（平成 25 年、外来患者数は平均 116.7 人/日、入院患者数 1,674 人/年；57.8 人/日、平均在院日数は 12.8 日）、消化器内科スタッフのみならず外科との連携の下に、救急医療も含め臨床医としての実力をつけることが出来ます。

消化器内科スタッフは、「上部・下部消化管」、「肝」、「胆・膵」、それぞれのサブスペシャリティごとに、指導医、または、専門医がおり、経験のある医師がそろっています。そのため、静岡県内でも、

先進の医療をいち早く、患者に施すことができます。

具体的には「1. 消化管癌の診断・治療」、「2. 救急医療：消化管出血の止血、急性腹症の診断・治療」、「3. 消化器進行癌に対する化学療法」「4. 胆膵疾患に対する内視鏡的診断・治療」、「5. 肝炎・肝細胞癌の治療（IFN、TACE、RFA など）」、「6. 高齢者に対する消化器医療」など消化器内科の広い領域にあたり広く診療を行っています。

特に「癌診療拠点病院」として癌治療（内視鏡治療や化学療法）はもとより緩和医療も推進しています。また、「消化管」、「胆膵内視鏡検査・治療」、「肝癌局所療法」に加え「腹部血管造影」など、「腹部IVR手技」も当科で行っています。

消化器内科の特徴として、内科医としての一般的な知識、技術に加え、習得すべき技術が多くあること。五大癌のうち三大癌（「胃癌」、「大腸癌」、「肝臓癌」）が消化器領域であること。

そのために、年月はかかりますが、見方を変えれば、修練が他に替え難い貴重な技術として、自身の身につくこととなります。

当院では、若手医師には、できるだけ早く技術を習得していただくように、あらゆる術式の主要メンバーとして活躍していただいています。また、技術のみならず、診療面においても深く関わっていただくよう配慮しています。

学術的にも、質の高い診療を目指し、国内外への、情報発信にも力を入れています。

当院は静岡の中でも医師数や症例数は県内トップレベルであり、消化器疾患の中でも幅広い疾患について多数の実地臨床経験できる施設であるといえます。

3) 静岡赤十字病院

静岡市内の中心街に位置し静岡駅からのアクセスも良い為、東は御殿場・沼津、西は浜松など遠方から通院されている患者さんも数多く見られます。現在、耐震構造に優れた新棟が3棟完成し、今後さらに残った病棟を取り壊し最新の病棟を建設する為の工事が進んでいます。2017年までで現在の残った古い病棟は全て取り壊され最終的には3つに区分けされた最新の病棟に移行される予定です。

「静岡赤十字病院消化器科」は10年以上前までは「慶応大学病院消化器内科」及び「北里大学病院消化器内科」の関連病院として定期的な医師派遣がありましたが、昨今の研修医制度の変更の影響から大学病院の医局医師の確保ができなくなり、現在は大学病院からの派遣病院からははずれて独立した医局環境となっています。その為、大学病院の医局とのしがらみが無く、短期間の他施設への武者修行や先端救命センターへの研修など幅広い自由な研修が可能である一方、研修終了後は希望の大学病院やがんセンターなどにこれまでも多数の後期研修医を専修医として送り出してきており、研修中も研修後も融通が付きやすい環境といえます。

当院では内科疾患はそれぞれの専門内科が専門治療を行っていますが、初期研修の際に総合的な内科知識を得てもらう為にそれぞれの症例を総合内科として多方面の医師が介入し初期研修医が勉強できる方式で治療に当たっています。その為、年間の内視鏡検査件数はニーズが多い一方、現在は施行医が少ない理由から適応症例を絞り検査そのものを減らしているのが現状であり、後期研修医として立ち上がった後は当院では内視鏡だけでなくあらゆる消化器内科的な症例・手技の経験が他施設に比較しかなりの数を得られる可能性が高い施設ではないかと思われれます。本人のやる気次第では、この施設での短期間の研修で他の施設で研修を受けた同世代の医師より知識・手技共にはるかに抜きに出た状態に持って行けるであろうと考えます。

当院は「内科学会認定施設」・「消化器内視鏡学会認定施設」・「消化器病学会認定施設」であり、初期研修医のマッチングでも非常に人気の高い施設です。病院全体で学会発表や論文発表も積極的に行

われています。病院の雰囲気としても科同士の敷居もなく、非常にアットホームで、特に消化器科と外科のコミュニケーションも非常に良好です。院内に緩和ケアチーム・NST チームが存在し積極的な医療サポートを行っています。

当科では「消化管早期癌・胆膵疾患の内視鏡治療」、「進行消化器癌の化学療法」、「急性肝炎や消化管出血などの救急疾患」に対する治療を積極的に行っています。C型肝炎の「IFN 治療」は静岡県下で行っている「prospective study」に参加しており症例を蓄積しています。最近急増している炎症性腸疾患も症例数は豊富であり、オールラウンダーな消化器内科医を目指すには恵まれた環境といえます。平成 25 年に北海道がんセンターより IVR 専門の肝・胆・膵内科医を迎え、静岡県下では他で行われていない BRTO や TIPS 等の専門の手技も施行できるようになり術前後の管理も含め良い研修ができると考えます。

早く一人前の手技を身につけたいオールラウンダーな消化器内科医を目指している先生方には是非当院での後期研修をお勧めします。

B: 志太榛原地域病院群

1) 焼津市立総合病院

当科は現在、5名の常勤医、5名の非常勤医（内視鏡検査、血管造影担当）と1～2名の初期臨床研修医（ローテート）で、年間延べ 17,000 名の外来患者、1,300 名の新規入院患者の診療を行っています。

取り扱う疾患は、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、胆石、肝炎・肝硬変等の消化器科疾患一般が中心であり、専門病院にありがちな症例の偏りなく経験することができます。

また小回りがきく病院なので他領域の内科や外科などと気軽に相談しながら診療を進めることが出来ます。

研修は、主に「日本消化器病学会専門医研修カリキュラム」に沿って行います。

消化器科医として必須な内視鏡手技は上級医の指導のもと習得していただきますが、まず上部消化管内視鏡検査を数多く経験してもらい、基本的な内視鏡操作に慣れたら大腸内視鏡検査や内視鏡治療（EMR、ESD、ポリープ切除、ERCPなど）に移ります。

一つの利点（欠点？）としては内科医不足のため、呼吸器、血液疾患なども担当できます（させられます?）。

ローテートまたはストレート研修のどちらでも大歓迎です。

2) 藤枝市立総合病院

当院は基本的に地域密着型病院であるため common disease を診療しながら、各科が専門性を生かし患者さんの治療に当たっています。「消化器内科」としては、特に「地域がん診療連携拠点病院」として、地域の医療施設から多くの消化器癌の患者さんの紹介があり、特に上部・下部消化管の内視鏡治療、胆膵疾患の精査・治療に力をいれて取り組んでいます。

「外科」、「緩和医療科」、「放射線科」、「臨床病理科」、「化学療法センター」との連携も有機的に機能して一人一人の患者さんに多方面からの視点で治療に当たることができます。

内視鏡などの技術的な手技は症例数をこなさないとなかなか身につけませんが、当院では症例数としては十分です。また、透視検査やエコー検査では熟練した技師から卓越した技術を学ぶことができ、初期研修医からも好評を得ています。さらに毎朝の「新患カンファレンス」、「内視鏡・透視

読影・エコーカンファレンス」、「外科との症例カンファレンス」などは定期的に行われ、広い知識を得ることができます。是非チームワークの力を実感してほしいと思います。

学会・研究会活動も盛んで多くの学会発表や論文発表を積極的に行っております。研修医の発表により、学会の若手奨励賞を数回受賞しています。

(発表については当院当科ホームページをご参照ください。

<http://www.hospital.fujieda.shizuoka.jp/shinryou/shoukakika/index.html>)

研修医の皆さんに伝えたいのは知識・技術・資格だけでなく、広い視野に立ちながら問題点を把握しつつ専門家として最善の治療を選択できる力量と、患者さんの気持ちに寄り添える臨床マインドです。研修を通じて自身の技術的進歩と精神的成長、さらに患者・スタッフからの信頼を得る喜びや充実感を是非実感してもらいたいと思います。当院での研修をお待ちしています。

3) 市立島田市民病院

当院は、志太榛原地域の基幹病院として通常の診療や救急診療に重要な役割を担っております。各科がそろっており、総合的、専門的研修が可能な環境です。当院では、初期臨床研修制度が導入される遥か前の昭和 55 年より続く伝統の研修制度があり、研修指導経験が豊富な指導医が多数在籍しています。さまざまな大学出身の医師が混じり合う環境の中でのディスカッションにおいては、自ずとそのよりどころはしっかりした evidence でなければならず(それぞれの流儀は通用しない)、EBM を自然と実践することとなります。

当院は、日本内科学会、日本肝臓学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本超音波医学会の認定施設となっており、消化器領域の認定医、専門医取得を目指す場合も十分な経験と指導が得られます。

7 病院群の実績

研修期間に算定される学会	県立総合病院	静岡市立静岡病院	静岡赤十字病院	焼津市立総合病院	藤枝市立総合病院	市立島田市民病院
日本内科学会	○ 研修施設	○	○	○	○	○
日本消化器病学会	○ 研修施設	○		○	○	○
日本消化器内視鏡学会	○ 研修施設	○	○	○	○	○
日本肝臓学会						○

検査処置件数	県立総合病院	静岡市立静岡病院	静岡赤十字病院	焼津市立総合病院	藤枝市立総合病院	市立島田市民病院
腹部エコー	8,949	4,660	9,250	7,742	18,603	5,602

胃内視鏡	3,192	4,116	2,763	3,174	5,093	4,395
大腸内視鏡	1,323	2,420	1,019	1,433	2,095	1,155
ERCP	380	220	120	235	301	51
腹部血管造影	244	102	52	66	40	71
PTCD・PTGBD	14	37	8	13	35	45
造影エコー	49	30	0	9	44	3
上部ESD/EMR	158	71	19	22	85	27
EIS/EVL	74	68	6	20	38	61
下部ESD/EMR	470	28	148	525	591	458
EST	47	55	74	10	96	36
ENBD ERBD	97	98	77	177	164	176
肝生検 腫瘍生検	129	31	1	8	11	48
RFA	101	60	0	4	2	0

※ 平成25年1月から12月まで(県立総合病院は平成23年1月から12月まで、静岡赤十字病院は平成25年4月から平成26年3月まで)

8 研修参加者の要件及び処遇

募集人員 2名

1) 要件

内科認定医・消化器病専門医取得の意志があること

○ 採用 書類審査及びプログラム運営委員による面接を行い決定。

2) 処遇

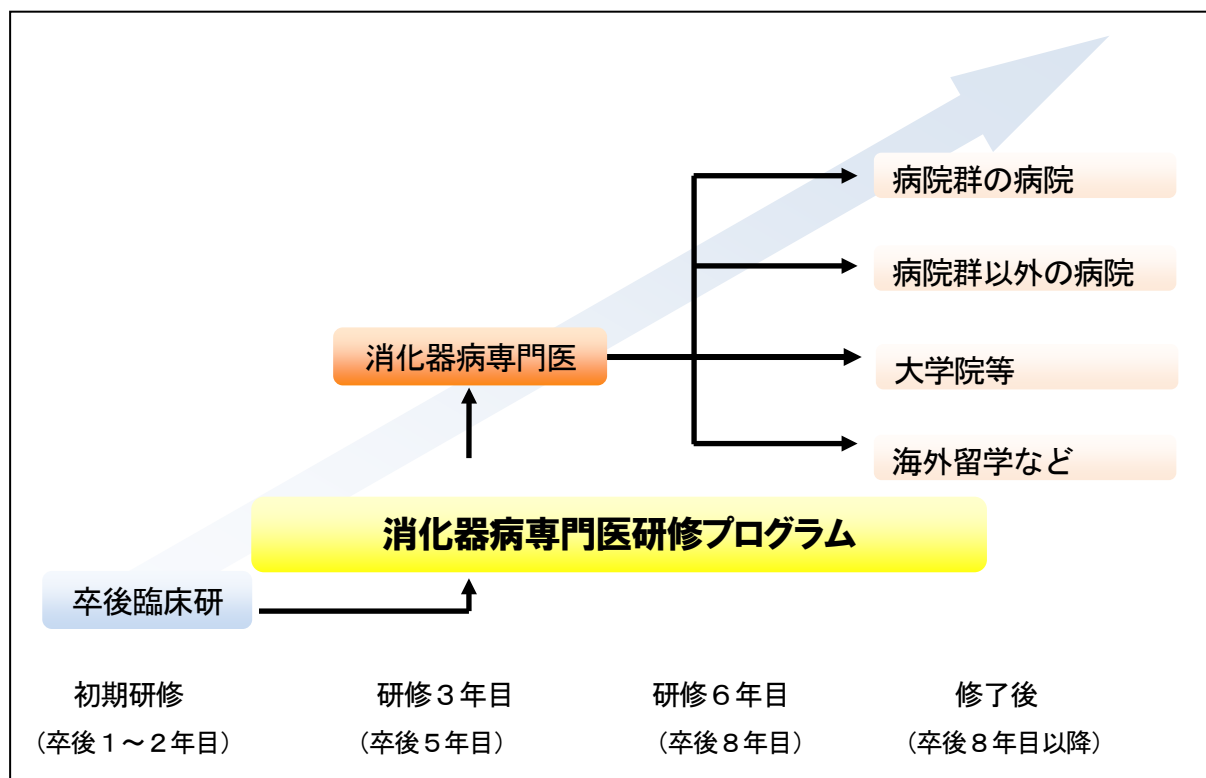
①身分、②給与、③福利厚生制度、賠償責任保険、休日等、宿舍、学会費用

身分や給与等の処遇は研修を受けるそれぞれの病院の規定によるものとします。

9 研修終了後の進路

- 1) 病院群への就職の機会が優先的に与えられます。
- 2) 関連する大学医局への入局へ推薦することが可能です。

プログラム参加者のキャリアプラン



10 プログラム運営委員 (◎ プログラムリーダー)

1) 静岡県立総合病院 菊山正隆 (1985年浜松医科大学卒業)

「消化器病」、「消化器内視鏡」、「胆道」の「学会指導医」です。

研修医の皆様にも、直接検査や治療を手がけていただけるように、内視鏡や経皮的処置の実技指導を行います。

趣味は・・・多岐にわたります。

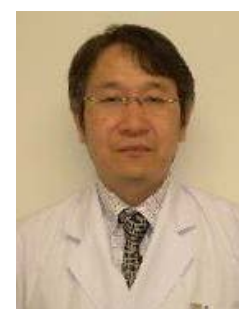


2) 静岡市立静岡病院 消化器内科医長 濱村啓介 (1987年広島大学卒業)

「日本肝臓学会専門医」、「日本消化器病学会専門医」、「日本内科学会認定医」

特に肝疾患を専門に、診療に従事しております。医師としての慌ただしい日々を過ごすうち、あっという間に20年以上経ってしまいました。少年老い易く学成り難し。思い返せば、私が研修医、専攻医、大学院生の頃には、臨床も基礎も、系統だった教育システムはほとんどありませんでした。

ごく少数の、いわゆる名医が、すべての患者を診ることはできません。これからは、「医師が全体として、技術向上すること」により重きを置くべき時代と思います。皆様が効率的、系統的に教育を受けることができるシステムの構築に貢献できれば、幸せです。



3) 焼津市立総合病院 消化器内科 小平誠 (1987年浜松医科大学卒業)

私は浜松医科大学昭和62年卒業です。

卒後主に Experience based medicine で突き進んできた私に最近若い先生が Evidence based medicine を吹き込んでくれています。しかし消化器内科 Experience と Evidence の両者が必要で大切な科ですから両方を身につけていただきたいと考えています。私以外の指導医が充実しているので安心してください。

私が当院で力を入れていることは、もちろん医療ですが、それ以外に年末の病院大忘年会で踊ることと年一回4月に開催される焼津みなとマラソン（ハーフマラソン）に参加することを重要視しています。みなとマラソンのトレーニングとして袋井クラウンメロンマラソンに出て、しばらく歩けなくなり、富士登山競走は8合目手前でリタイアでした。

一緒に院内の階段登りをしてくれる人、待っています。



4) 藤枝市立総合病院 消化器内科 丸山保彦 (統括診療部長) (1988年浜松医科大学卒業)

昭和63年浜松医科大学卒業。同大学（第一内科）大学院修了。臨床はおもに藤枝市立総合病院と大学で学びました。若い頃は内視鏡治療ばかりに目が向いていましたが、診断学の重要性、奥の深さに目覚め、現在はこちらにも力を入れています。日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本消化器病学会指導医です。

私は主に消化管を担当していますが、肝胆膵疾患を含め一般内科的患者さんは手分けをして受け持ってもらいます。

最近感じることは合併症を有する高齢化患者さんの増加です。多くの合併症をもつ患者さんの病態全体を把握することは難しいことだと痛感しつつ、他領域に関しては各専門科の先生にコンサルトしたり、研修医の先生と一緒に勉強したりしています。



5) 市立島田市民病院 消化器内科主任部長 松下雅広 (1993年浜松医科大学卒業)

日本内科学会認定医、専門医 (FJSIM)、日本肝臓学会専門医、日本消化器病学会専門医、指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本超音波医学会専門医 (FJSUM)、指導医 (SJSUM)、米国内科学会上級会員 (FACP)、米国消化器専門医会会員

平成5年に浜松医科大学を卒業し医師として勤務するようになり、気づくともう20年以上経過してしまいました。それなりの経験を積んだ今でも、はっとさせられ、考えさせられる症例に出くわすことは稀ではなく、一生勉強なんだなあと感じています。当院は海にも山にも近く環境に恵まれた立地です。一緒に働けることを楽しみにしています。



6) 静岡赤十字病院 北村 匡 (1992年北里大学卒業)

平成4年北里大学卒業です。

学生時代は大学に行かずに遊び歩いていた出来の悪い学生でした (笑)。

専門は消化管の内視鏡治療と進行癌の化学療法です。学位は大学院に行かず臨床研究で取得しました。現在の病院へ来る前は北里大学病院3次救命センターで救命指導医をしていました。

研修医の先生達にいつも話しているのですが、「専門以外もつねに60点以上の合格点を貰える知識をもちなさい」、「専門分野は常に100点を取れるように研鑽を積みなさい」というのが自分への戒めとしてのモットーです。頑張っ更新しているのですがなかなか難しいですけどね。

日常の診療から内視鏡のテクニック、はたまた夜の遊びまで、楽しく教えられると思います。楽しく厳しい後期研修を送れるように手ぐすね引いて待っています (笑)。

